

星野 洋美  
(常葉学園大)

**目的** 大学や社会教育の場における家庭科に関わる講義及び演習において、開発教育的視点を導入した学習活動を実践し、学習者や観察者等による評価を通し、家庭科における開発教育的アプローチの有効性について明らかにする。

開発教育とは地球市民育成の為の教育(南北問題・環境破壊など地球規模で拡大している問題を認識し解決策を考え実行できる人材の育成を目的としている)であり、参加型の体験学習を取り入れたアプローチの方法を推し進めている。

**方法** 開発教育的アプローチを取り入れた学習活動(以下の①②③)を行い、評価として学習者や観察者に対するアンケートや聞き取り調査を実施した。

学習活動①「家族」；スライド(HONDURASの子供の生活)や青年海外協力隊員の話を通して、生活や考え方の違いを知ると共に家族の繋がりや本当の幸せについて考える。

学習活動②「様々な生活文化」；各班ごとに異質の文化を持つ外国人ゲストを招き、衣食住などの生活習慣や価値観についての質疑応答を通して、文化の多様性を学ぶ。

学習活動③「環境問題」；個々の学習者が関心のある環境問題について、文献や諸調査を通して調べ、結果をレポートにまとめ、更に絵本(4コマ劇)やレジュメに示し発表、全体で検討。

**結果** 成果として、(1)世界の国について日常生活と結びつけて学習することで興味が増す、(2)第三世界の人々の生活を知ることから、南北問題や更に大きな経済構造を理解できる価値が生まれる、(3)生活習慣や価値観の多様性が体験的に理解できポスターレス社会に対応できる素地作りに役立つ、(4)絵本やレジュメ作成により、暮らしと地球環境との繋がりを集約的に表現することで、自他共に学習成果が高まる等、評価において挙げられた。